



相ノ木っ子だより



令和3年度
9月号
上市町立
相ノ木小学校



オリンピックは誰のため？感謝の心とひたむきさ



「少し小さな声で挨拶しますね。おはようございます」「おはようございます」

体育館でこれまで以上に間隔を取って行った第2学期始業式。感染予防を考慮してのわたしの挨拶に、遠慮がちですがはっきりと挨拶を返してくれた子供たち。背筋を伸ばし、わたしの方をしっかりと見て話を聞き、しーんとした空気を生み出していました。どの子も、新学期への期待とやる気が見られるとともに、コロナ拡大に伴う緊張感や不安感、自分たちで気を付けなければいけないという思いを強めている感じがしました。とは言え、式後はそんな思いをもちつつも、友達と楽しく、元気に過ごす子供たちです。その様子を見ていて、今後も新型コロナウイルス感染予防をしっかりと行い、教員と子供たちが対話し合う学びを2学期ずっと続けていきたいと思いました。

さて、昨年度とは違い、例年通りの長い夏休みを過ごすことができた今年度。せつかくの長期休業ですから、子供たちには普段できないことに食欲にチャレンジしてほしいと願っていました。なのに、変異型ウイルスの猛威により、全国的にも新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、より一層の自粛をせざるを得ない状況になってしまいました。きっと「時間はたっぷりあるのにやりたいことができない」「行動を起こしたり活動を広げたりすることを我慢しなければいけない」そんな鬱々とした日々を子供たちは過ごしていたのではないのでしょうか。わたしも、あまりに感染者の増加が激しいため、日々憂いが増すばかりでした。そんなわたしの気持ちを軽くしてくれたのが、東京オリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍でした。

その開催には賛否両論あったでしょうが、今できる最高のパフォーマンスを体現する日本選手たちの姿、素晴らしい成績と数多くの感動の場面に勇気づけられました。そして何より、1年間延期されたにも関わらず努力し続け、感染への不安や開催・参加への気持ちの揺れを抱えながら心も体もきちんと調整してきたことに、アスリートたちのすごさを感じました。中には、メダル獲得を大いに期待されながらも、それに応えることができなかつた選手たちもいました。でも、精神面やけが等の不安要素を抱えていたようですし、開催のタイミングに合わせるのは本当に難しいものだと感じました。そして、今自分が置かれている状況で目いっぱい頑張っていたように思います。特に印象に残っているのが、水泳男子200m個人メドレーの決勝レース後の萩野公介選手と瀬戸大也選手の姿です。メダルに届かなかつたのに、互いに決勝で競い合えたことを満面の笑みで喜び合っていました。どちらも前回リオ大会のメダリストで、実績十分な二人でしたが、それぞれにいろいろな苦難を乗り越えての今回のオリンピックでした。現状で決勝へ進み精一杯泳げたことへの満足感や幼い頃からのライバルへの感謝の気持ちによって、メダルを取った前回大会以上の幸福感を得られたのだと思います。

また、たくさんの選手が、出場できたことやサポートしてもらったことへの感謝の気持ちをインタビューで語っています。そういった姿を見ると、いったい誰のために彼らは出場しているのだろうかと思ってしまいます。もちろんオリンピック・パラリンピックに出場し、メダルを目指すのは、自分自身のためでしょうが、きっとそれだけでは過酷な練習を長期間にわたって続けることは難しいものです。周りの人との連携やそれらを代表する気持ちといったものがきっと支えになっているのでしょう。だからこそ、あんな感動的なひたむきさが生まれてくるのだと思います。

イギリスの小説家シャーロット・ブロンテは、「ジェーン・エア」という作品で次の言葉を書いています。

仲間に愛されていること、
そして自分の存在がみんなに安らぎを与えているという実感。
これにまさる幸せはない。



相ノ木っ子の秋季大運動会を2週間延期しました。子供たちがコロナへの不安を少しでも減らし、元氣よく運動会に取り組むことができるよう願っています。そして、みんなで行える幸せと周囲の人・互いへの感謝を胸に、今できる自分たちらしいひたむきな運動会にしたいです。



思わず発するつぶやきが...



今年度から開始した一人一台端末の導入、いわゆるタブレットを使っの教育活動ですが、これは、ICT 機器を活用すること自体が目的なのではなく、機器を最大限に活用し、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることを目的としています。つまり、ICT 機器を有効に活用することで、一人一人の必要に応じた重点的・効果的な指導、一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供、一人一人のよい点・可能性を生かした他者との協働といった教育活動を充実させていくことをねらっているのです。そんな教育活動の実践・工夫を積み重ねていくことで、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られ、新しい時代に必要となる資質・能力が子供たちに身に付いていきます。

とは言え、そういった活動を実際に行っていくためには、子供たちがタブレットの操作・活用に慣れ、学校でも家庭でも使いこなせるようになることがまず必要です。1学期中は、学年に応じて授業で使ったり家で課題に挑戦したりして、子供たちはタブレット使用に少しずつ慣れてきています。さらにお家の方々にも見知っていただきたく、夏季休業中の学年登校日を利用して子供たちに持ち帰ってもらう予定でした。しかし、コロナ感染拡大のために学年登校日は中止となり、その機会を逸してしまいました。そこで、当分全学年が土・日に持ち帰り、学年に応じた学習課題に取り組んでもらうことにします。お家の方々も子供たちと一緒にタブレットを操作したり、子供たちの操作を見守ったりして、家族で機器に慣れ親しんでいただければ、学習環境・家庭学習の充実やオンライン授業への対応を含め、より有効な活用につながっていくものと思います。

そして今後、子供たちの情報モラル、情報リテラシーをしっかりと育成していくことがますます重要になってくることでしょう。多くの人とつながり、一人一人の可能性を広げてくれる ICT 機器ですが、アプリや SNS におけるトラブルや事件が数多く起きています。ちょっとした甘い考え、何気ない判断ミス、思わず発した一言等が大きな災いに発展する危うさを持ち合わせています。そういったことに陥らずに情報を活用していくためには、情報の適切な収集・処理・発信を子供たちができるようになることが大事であり、その根底にあるのはモラルや道徳心です。公共に対する構えや相手を思いやる心、こんなことを言うと相手はどう思うか考える想像力、もちろんこれらは情報を扱う際に限らず、社会性として子供たちに必要なことですから、ふだんから道徳的な心情、判断力をきちんと育てていくことが大切です。

あの言葉はもちろん、思わず口からこぼれたのだが、
思わず言っただけによけい重大なのだ。

これは、ロシアの小説家ドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」の一節です。何気ない一言だからこそ、その人の心があるまま映し出されているのです。ちょっとしたつぶやきが相手や自分に大きなダメージを与えるかもしれません。見えない相手であろうと、常に表情と心を想像してあげることが必要ですね。

行事予定（9月中旬～10月中旬）

| | | | |
|----------|----------------------------|----------|------------------------|
| 9月17日（金） | 上市町小・中学校科学展覧会 （～20日（月）） | 10月6日（水） | 学校訪問研修会 |
| 20日（月） | 敬老の日 | 7日（木） | 1年ふるさと学習 |
| 22日（火） | 運動会予行練習 | 8日（金） | 4年校外学習 (TOYAMA キラリ) |
| 23日（木） | 秋分の日 | | 歯科検診 |
| 24日（金） | 4年校外学習（四季防災館） | 12日（火） | 6年ふるさと学習 |
| 27日（月） | 5年校外学習（常願寺川） | | |
| 28日（火） | 秋季大運動会 | | |
| 29日（水） | 3年ふるさと学習 | | |

